

01

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」始動!

7月27日、国連大学のウ・タント国際会議場(東京・渋谷区)で、「なんとかしなきゃ!プロジェクト」見通し55億人」の記者発表会が行われました。国際協力に取り組み川嶋あいさん、北澤豪さん、紺野美沙子さん、塩谷瞬さん、高橋尚子さん、知花くららさん、福留功男さん、渡辺真理さんの著名人メンバーが出席し、途上国支援のために「なんとかしなきゃ!」と、それぞれの決意を述べました。

このプロジェクトは、日本の市民一人一人に自分の立場からできる国際協力を見つけてもらうという趣旨でスタート。国際協力NGOセンター(JANIC)、JICA、国連開発計画(UNDP)が実行委員会となり、全国各地にいるさまざまな国際協力のプレイヤーと連携しながら、世界の問

題や途上国支援の現状を、ウェブやイベントなどを通じて発信していきます。会見では、JICAオフィシャルサポーターでもある北澤さんが「途上国を訪問して、はだしだけどしつかりと大地を踏みしめている子どもたちにパワーを感じました。小さなきつかけから、あなたができる国際協力を始めてみてください」と呼び掛けしました。

詳しくは nankashinaky.jp へ



(上)「なんとかしなきゃ!」と訴える著名人メンバー
(下)北澤さんは、途上国でのサッカー教室を通じて、スポーツを通じた国際協力を力を入れる

02

シンポジウム「BOPビジネスに向けた企業戦略と官民連携」開催

7月14日、経団連会館(東京・千代田区)でシンポジウム「BOPビジネスに向けた企業戦略と官民連携」(日本経済団体連合会、日本貿易振興機構、JICA共催)が開催されました。低所得者層を対象としたビジネスであるものの、開発途上国の課題解決にも貢献する事業として注目を集めている「BOPビジネス」の推進に向けて、当日は、さまざまな分野の有識者が集い意見交換を行いました。

冒頭では、バンングラデシュでマイクロクレジットを行うグラミン銀行総裁ムハマド・ユヌス氏(2006年ノーベル平和賞受賞)が講演。ダングループやユニコロとの連携事業を事例に貧困削減を促す社会的事

業について言及した上で、「日本企業の創造力は、多くの課題解決に貢献する可能性を持つ」と述べました。

続いてパネルディスカッションでは、先行事例の紹介に加え、低所得者層向けビジネスの企業戦略や、官民連携の方策・要望についての情報を共有。大島賢三JICA副理事長は、現在JICAがBOPビジネス促進に向けて準備中の新制度について紹介し、貧困削減の重要なツールとして、今後も積極的支援していく方針を述べました。



「BOPビジネスにより貧困削減を達成したい」と意欲を語るユヌス氏

03

モロッコに新しい高速道路が完成
—経済活性化に期待

モロッコからアルジェリア、チュニジア、リビア、エジプトをつなぐ広域インフラ「アガディール-カイロ開発回廊」の一部、「マラケシュ-アガディール間高速道路」が日本の円借款などの支援で完成し、6月21日、開通式が行われました。

モロッコの二大観光都市を結び、農産物や水産物の流通経路としても重要なこの区間は、山間部で道幅が狭く、大型トラックによる渋滞が慢性化し、交通事故が多発していました。アフリカ開発銀行などと協働で実施されたこの事業でJICAは、全長234キロのうち、アガディール寄り

46キロにわたる区間の建設を支援。新しい道路の開通により、約4時間半の所要時間が2時間半程度にまで減るとみられています。アガディール近郊の住民も「観光客が増えれば地元の経済も潤い、私たちの生活も改善されるのでは」と期待しています。



JICAが建設に協力した「マラケシュ-アガディール間高速道路」